

# 女性自衛官教育隊の 昨今を振り返って

借行社監事

杉澤 敬子 陸自58

はじめに

昨年(平成30年)12月、朝霞駐屯地に所在する女性自衛官教育隊は、創隊50年を迎えて盛大な記念行事を催行しました。その際、現隊長の中川美佐は次のように述べました。

「創隊から半世紀を経た今日、陸上自衛隊は女性自衛官の活躍を強力に推

進しています。女性が精強な自衛官として存分に能力を発揮できるよう、昨年はほぼ全職域が開放され、合わせて女性の勢力を2030年に現在の約1万人から約1万3千人へ、さらに2050年には約2万人へ拡大することが追求されます。(女性自衛官の1万人は陸自隊員全体の6〜7%に相当。1万3千人は9%、2万人は14%に相当する)

女性自衛官教育隊に入隊・入校してくる、ますます多くの新隊員や陸曹候補生を、そうした時代の要請に応じられる人材に育てるため、女性自衛官教育隊は引き続き精進してまいります。今後ともよろしく願います」

## 婦人自衛官教育隊の時代

初代の婦人自衛官教育隊長・前田米子女史が、昭和61年1月に定年退官(当時1佐)された折、WAC制度に関わりの深かった防大教授から、「折に触れ思い起こさん草分けの『婦教』の思い永久に忘れじ」との言葉をいただいたそうです。それを伝え聞いた私は、それを大切にしてきましたが、ここで『婦教』―婦人自衛官教育隊―の沿革を振り返ってみたいと思います。

昭和43年3月、それまで看護職種の婦人自衛官はおりましたが、新たに一般職の婦人自衛官制度を設けることに



左から吉田白鳩会会長、筆者、中野東方幕僚長、山崎女史、中川隊長

なりました。(海・空に婦人自衛官が配置されたのは昭和49年)

その編成準備・基幹要員として、公募(資格は大卒後2年以上)による幹部11名、9月には公募による陸曹(資格は短大卒後2年以上)25名が採用されました。朝霞駐屯地に所在する輸送学校で、婦人自衛官学生隊が発足し、基礎教育が行われたのです。

学生隊で服務指導にあたったのは、看護職種から選抜され、米國に留学し、米軍婦人部隊・WACの厳しい教育訓練を受け、帰国した4名の教官でした。この人たちと36名の計40名が、婦人自衛官制度の基幹要員・パイオニアとなったわけです。

その「公募幹部」の一人が私で、幹部候補生学校を経ていない幹部でした。

防大の1期生が「神様」とあがめられているようですが、公募幹部1期生が「雲の上の存在」だったかどうかはわかりません。ただ私たちは、「二度とクルメー」という実感はありません。同年12月、第1教育団隷下の「婦人自衛官教育隊」が誕生しました。年が代わった翌年1月、早くも女性の新隊員教育(前・後期)が始まったのです。

「公募幹部」という制度は3期で打ち切れられ、「公募陸曹」も4期で終了しました。代わりに、婦人自衛官教育隊

が、女性の幹部候補生、陸曹候補生、職種未区分幹部のBOC課程の教育も担当することになったのです。

さらに、陸自として女性幹部の増員が望まれたことから、昭和55年に第9期以降の幹部候補生教育は、前川原の幹部候補生学校に移されています。

ということとは、それまでの10数年間、看護職種を除くすべての女性自衛官の基礎教育は、一元的に婦人自衛官教育隊が担当していたのです。だから女性自衛官にとって「婦人自衛官教育隊」が、教育のメッカ、登竜門だったと言えるでしょう。

その後、新隊員・陸曹候補生の後期教育は、徐々にそれぞれの職種学校や部隊が担当するようになりました。しかし基本的に、新隊員・陸曹候補生の前期教育は、婦人自衛官教育隊が担当し、今日まで引き継がれてきました。

平成2年、女性自衛官の採用枠が大きく増え(募集難の一環?)、教育所要が大幅に増えたことや、地元での勤務希望者が増えたことから、女性新隊員の教育も、平成2年から彼女たちの出身方面隊の教育団で実施されるようになりました。

婦人自衛官教育隊の隊長について一言。初代の隊長は、かの有名な前田米子女史(当時は1尉)でした。彼女は

後にCGSを聴講し、米國に留学して婦人部隊(WAC)を学び、婦人自衛官制度の充実・発展に尽力されました。

しかし、教育態勢が整ってきた2代目は、男性の熊谷義明氏(当時1佐)になっていました。

それ以降、現在の23代目までの隊長名を拜見すると、女性の隊長が6人、その他は男性という状況です。隊長人事はわかりませんが、原則は男女にかわりなく、交互に就けることでもなく、適任者が選ばれるようです。

現在の隊長は、先に述べた中川1佐。英語が堪能で、中央即応集団司令部で複数外国との調整にあたる課長だったそうです。ちなみにご主人は、アフガニスタンの防衛駐在官の経歴を持ち、ご夫婦ともに実務派・国際感覚に秀でておられます。

女性自衛官教育隊への名称変更と将来  
平成15年4月、政府の方針を受け、部隊の名称が変更されました。現在使われている「女性自衛官教育隊」です。変更した理由は、当時の社会通念から、婦人に対する男性側の呼称がないので、男女平等の観点から女性に変更されたことと記憶しています。看護婦から看護師に代わったのも、この頃だったでしょう。特異なこととして、WAC・ワック

という言葉が使われなくなりました。それは本来、「女性部隊」を指すもので、陸自にそうした部隊はないこと、個人を対象にした名称ではないというのが建前のようなのです。

私が現役の頃、「ワック」という言葉はよく使っていました。噂によると、若い女性自衛官が隊内を歩行中、上級者らしき男性幹部から「おい、そのワック!」と呼びつけられ、不快だったので「ワック」の言葉は使いたくないという訴えが結構あったと聞きました。「男尊女卑」の匂いがあったためかもしれません。

ところが最近では、社会の価値観の変化に伴い、女性を重用する傾向が強くなりました。安倍首相の大号令の下で、「女性の輝ける時代」、「働き方改革」等の政策が逐次推進され、女性自衛官についても、職域拡大、ポストと責任、母性保護に、大きな変化が見られます。昨年(平成30年)の自衛隊観閲式の当日、観閲官・最高指揮権者である安倍首相に対し、隊長の中川1佐が直接、女性自衛官の現状についてご説明の機会を得ました。そこでは、陸自における女性自衛官の歴史と現状、今後の働き方や長期勤務を可能にする諸施策、女性特有の諸問題等々が申し述べられたと聞いています。政府が推進する「女性の働き方改革」

## 女性自衛官教育隊シンボルマーク



- 昭和47年12月に制定
- 「桜」は日本の国防を意味し、「白鳩」は平和と女性自衛官を象徴するとともに鳩を向き合わせることで「WAC」のWを表しています。



## 女性自衛官教育隊新シンボルマーク



### デザインコンセプト

- 女性自衛官の配置や運用に関わる現在の施策（「平成30年度以降の女性自衛官（一般）の職域管理基準について」（陸幕人教第329号（30・5・10））に基づき、将来にわたる強靱な

陸自の創造、人的戦闘力の維持、増進に寄与する「精強な自衛官」としての女性自衛官をイメージ。

- 女性自衛官教育隊の指標に基づき、「強く」、「明るく」、「美しく」を表現。

### イーグル

- イーグルは、鳥の王者とされ、古来各地で軍旗等に使用されてきたもの。

従前の職域に加えて普通科等第一線部隊にも配置され、精強性や勇猛果敢の発揮を期待される新たな女性自衛官像や、そうした時代に向け飛び立っていくこれからの女性自衛官を表現。

女性自衛官教育隊の基幹隊員及び入校学生からデザインを募集し、基幹隊員、入校学生による投票及び方面総監以下4役ならびに混成団長等の投票を経て、新シンボルマークが決定された。

が、自衛隊にも波及していることを確認され、首相も満足されたのではないでしょうが。

女性自衛官の職域拡大については、空挺団を含む陸自の全職種において彼女たちが勤務できるようになりません。もちろんハードな職種・職域は本人の希望によりますが、近い将来、女性の狙撃手も誕生するかも知れません。

29年版の防衛白書は、「輝き活躍す

る女性隊員」の特集を掲載しました。「防衛省・自衛隊は、意欲と能力のある女性が、あらゆる分野にチャレンジする道を拓いています」と謳っています。国防に参画する女性の比重が増えるだけでなく、各職場・ポストにおける責任も拡大します。また、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に関する取り組みも図られます。

パイオニアが拓いた道を若い人たちの教官、男性の助教がいます。なぜなら、そこは花嫁学校でなく、戦闘訓練、射撃、野営、職種の基礎をメインにするわけで、男女の区分よりそれらの科目に必要な自衛官を教官・助教として求めるからです。

がしっかりと踏みしめ、国防の任務に邁進されることを大いに期待します。でも当時、パソコンや携帯は勿論、専用電話網すら完備されていなかった草創期の環境で、基幹要員も学生も「一所懸命」頑張っていたことを時々思い起こしていたのですが。

### 女性自衛官の教育と自分の人生

現在も、女性自衛官教育隊には男性

の教官、男性の助教がいます。なぜなら、そこは花嫁学校でなく、戦闘訓練、射撃、野営、職種の基礎をメインにするわけで、男女の区分よりそれらの科目に必要な自衛官を教官・助教として求めるからです。

今年度の自衛官候補生・一般曹候補生を併せた女性の新規採用者は約500名を予定しているそうです。

更に陸曹候補生も多数の合格者が見込まれます。そうなる

と、女性自衛官教育隊の今までの教育能

力を超え、受け入れ施設も不足するでしょう。これは、うれしい悲鳴といふべきかもしれませんが、施設と教育陣の増強が欠かせません。

当面の措置として、二つの方策を取るそうです。一つは、東部方面隊管内の女性自衛官候補生教育の一部を、通信学校（久里浜）に担当してもらおうこと。これは数年前から始まっています。

二つ目は、教官・助教多数を、他の部隊から臨時に派遣してもらう方策です。しかし、他部隊とて余剰人員がある訳でなく、低充足の下で本来任務に支障をきたすため、人員の差し出しは難しいのが現状です。

また教官・助教には、教育能力や適性が求められるので、差し出す側はそれにふさわしい人選を余儀なくされます。ですから、数と能力の両面から差出部隊は頭を悩ませると思います。

しかし一方で、臨時勤務にせよ、女性自衛官教育隊の本属の教官・助教だったにせよ、彼女らには後から「本当に得難い経験ができた」「自分を成長させる事ができた」と、感謝する人が大勢居るのも事実です。

かく言う私は、自衛官として勤務した期間は約22年ですが、その大半は教官職でした。その間、当然ながら教育に必要な知識・能力の研鑽に努めるのはもとより、人間性や人格の向上・自

己啓発の努力が必要とされ、学生から教えられることも多く、己の成長の資となつたことも確かです。

長期にわたり、教官職を拝命出来たことは、私にとつて感謝の一語に尽きると肝に銘じています。

更に、全国の陸自駐屯地・部隊には、当時の学生だった人たちが勤務していただきますので、どの方面隊を訪問しても必ずその人たちに会える楽しさを経験してきました。

これは、私にとつて宝です。その人たちに会う度に、努力する姿勢・成長した姿に接し、どれほど嬉しく思えたことか。これぞ「教官冥利」と内心ほくそ笑んでいました。

正直に申し上げれば、私は出世しませんでした。しかし、自衛官として過ごした人生を誇りに思えるのは、教育を通じて若い人を育てる喜びが励みと生きがいになり、そこから満足感と幸せを貰っているからです。

### 支援組織「白鳩会」について

女性自衛官教育隊を外から支援する組織として「白鳩会」があります。創立25周年の折、女性自衛官のOBと教育隊OB、そして現役の女性自衛官を加えて「白鳩会」なる支援組織が創設されました。以後、私はその会の役員を仰せつかり、この15年は副会長とい

う大役を拝命しています。

もともとこの会は「元・現役の女性自衛官」にとつて「心のふるさと」の親睦会でした。その後、「後に続く女性自衛官育成の支援」を惜しまない役割が追加されました。白鳩会は女性自衛官の教育に関わつた人たちの会ですので、男性を締め出す「ウーマンリブ」の会ではありません。

節目の年には、教育隊と共に記念行事を催し、女性自衛官という一般社会では経験しえない、貴重な共通の思い出を持った者が当時を振り返り語り合い、後輩たちを激励する機会を持つてきました。

### おわりに

冒頭にも記しましたが、昨年は女性自衛官教育隊の創設50年、白鳩会創設25年に当り、OB・現役併せて400名を超える久々の大集会となりました。

式典に続く記念講演には、女性宇宙飛行士の山崎直子氏を招聘し、女性パイオニアの精神を学ぶことができて、好評を博しました。

山崎女史をお招き出来たのは、平成27年の偕行社総会で彼女の講演会が催された際、お名刺を頂いていたので、失礼を省みず講演をお願いしたのが実現したのです。

偕行社の前事務局長の若木利博氏や、評議員で元東部方面総監の森山尚直氏のご助力を得ることができたのも、成功の一因でした。私が偕行社会員であったことからできたことであり、偕行社に感謝！感謝！です。現在、偕行会員に占める元自衛官の女性会員は少ないのが現状です。感謝のお礼として、健康が許す限り、彼女

### 女性自衛官教育隊歌 1～4番

## 女性自衛官教育隊歌

作詞 日高重雄  
(陸士57)



- 一 紺碧の<sup>そくせき</sup>大空のもと  
戦いの<sup>いくさ</sup>やまぬ地あれど  
幾年か<sup>いくねん</sup>平和に明けし  
日本の<sup>にっぽん</sup>未来に羽ばたく  
白鳩よ<sup>しらくら</sup>優しくありて  
ああ栄光の<sup>えいこう</sup>女性自衛官
- 二 先人の<sup>せんじん</sup>歴史に絶えて  
ためしなく乙女の<sup>おんな</sup>胸に  
防人の<sup>ぼうえい</sup>血潮を秘めつ  
武蔵野の<sup>むさしの</sup>野辺に羽ばたく  
白鳩よ<sup>しらくら</sup>優しくして  
ああ栄光の<sup>えいこう</sup>女性自衛官
- 三 夕映えの<sup>ゆふばな</sup>真白き<sup>ましろ</sup>富士に  
誓う<sup>ちか</sup>とや使命に<sup>しめい</sup>耐えつ  
先ず<sup>まづ</sup>婦徳<sup>ふとく</sup>純潔の<sup>じゆんけつ</sup>身に  
たぎる<sup>たぎる</sup>血を<sup>ちを</sup>たえ<sup>たえ</sup>羽ばたく  
白鳩よ<sup>しらくら</sup>慎しくして  
ああ栄光の<sup>えいこう</sup>女性自衛官
- 四 たち<sup>たち</sup>難き<sup>がた</sup>思いし<sup>おも</sup>いし<sup>い</sup>遂げて  
はるかなる<sup>はるか</sup>故郷<sup>こきやう</sup>あとに  
集い<sup>あひ</sup>来し<sup>きた</sup>縁を<sup>ゆかり</sup>永遠<sup>とわい</sup>に  
育みて<sup>そだ</sup>とも<sup>とも</sup>に<sup>に</sup>羽ばたく  
白鳩よ<sup>しらくら</sup>心に<sup>こころ</sup>笑み<sup>わら</sup>もて  
ああ栄光の<sup>えいこう</sup>女性自衛官

平成15年4月1日婦人「から」女性と呼称変更